

浮田 健誠 選手・和田 侑樹 選手の紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号

15 FW

ウキタ ケンセイ

浮田 健誠 選手

(25歳)

ホームタウン応援大使
美濃市

ニックネーム

ケンセイ

千葉県鎌ヶ谷市出身で3人兄弟の末っ子、長男の影響で3歳からサッカースクールに通い小中学校は地元、高校は日本体育大学柏高等学校に入学し、柏レイソルU-18でサッカーに集中した。大学は順天堂大学スポーツ健康科学部に進学し、サッカーを続けた。そして、在学中に中学・高校の保健体育の教員免許を取得しました。大学の方針で1年生時は全員2人部屋での寮生活をし、ルームメイトはサッカーと縁がなかった医学部生と一緒に。今でも交流は続き、適切なアドバイスをくれる友人として付き合っています。2020年J2のレノファ山口に加入し、8月にヴァンフォーレ甲府戦でJリーグ初ゴールを決めた。初ゴールは今も鮮明に覚えている。その年7得点を決め、家族とファンに喜んでもらったことがとても嬉しかった。2022年にJ3のSC相模原に移籍し、J3リーグでのフィジカルの強さの重要性を再認識しトレーニングに励んでいる。

岐阜での一人暮らしは、外食と自炊が半々の生活で自炊は鍋料理が多くなります。岐阜には美味しい店がたくさんあるため、チームメイトとの外食も楽しんでいます。応援大使の美濃市にも行きました。有難いことにSNSでサポーターの皆さんから頂く様々な美濃市情報を頼りにぶらりと出かけて、美濃和紙、提灯やうだつの町並みを見て歴史を感じています。休日はチームメイトとゴルフをしたり、サウナや温泉に行き息抜きをしています。まだ少しですが岐阜の良さを日々味わっています。

今年監督に就任した、上野監督は非常に前向き思考で選手とのコミュニケーションも取ってくれます。改善点には妥協がない指導力に、ひたすら頑張る力が湧いてくる楽しさがあります。過去3年間はコロナ禍で他チームにいたので、声出し応援が解禁された今、試合に勝って勝利の歌と一緒に歌ったときに感動しました。FC岐阜ファン・サポーターの皆さんはアウェイにも大勢来てくれて、本気で後押ししてくれて共に喜んでくれて感謝しています。今シーズンは応援に来てくれる子供たちや家族、ファン・サポーターとゴールの喜びを沢山味わい、2桁得点、そして昇格できるようにチームを勝たせられる選手になりたいと思っています。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号

25 DF

わだ ゆうき

和田 侑樹 選手

(22歳)

ホームタウン応援大使
御高町、八百津町

ニックネーム

わだ

今シーズンからFC岐阜でプロデビューを果たした和田侑樹は、三重県志摩市出身で2人兄弟の兄である。地元の小中学校に通い、ソシエタ伊勢SCでサッカーに親しんだ。全国高校サッカー選手権大会に憧れて、四日市中央工業高校のサッカー部に入部した。全国高校サッカー選手権大会に出場したが、自分はピッチには立てずチームメイトをスタンドから応援する悔しい経験をした。高校3年間は4人部屋での寮生活であった。畳4枚ほどのスペースで暮らした同級生4人は、クラスも授業も一緒だった。サッカー部内でのチーム分けだけが唯一違っていたくらいで、非常に濃い人間関係の得難い体験であった。マイペースでフワフワしていると言われることがあるようだが、この濃い環境を生き延びるオンオフのメリハリを身に着けたことや人の話をよく聴けるようになったのは収穫であった。

東海学園大学サッカー部に進み、素晴らしい監督に出会えたことで、今の自分があると心から感謝している。当時から神様のように尊敬していた監督で、自分の粗野なプレーをも尊重してくれながら、『自分の武器を一杯作れ！得意技を作れ』と激励し続けてくれた。それが今日のプロになれた原動力であり、武器である左足での局面打開力、突破力になっている。まだまだ、開発途上であり、磨き続けることを楽しみにしている。大学4年間の一人暮らしで、自炊をしていたため、適当に体に良い料理を作る技も覚えたので、岐阜での一人暮らしも楽しめています。まだ県内は行ったことのない場所が多いですが、応援大使を務める御高町と八百津町に先ずは行きたいと思っています。岐阜のファン・サポーターの皆さんの声援はたくさん聞こえていて、プロデビューした開幕戦では思わず胸が熱くなりました。岐阜に来て、まだ3ヶ月しかたっていませんが、この岐阜で活躍してJ2に昇格して喜んでほしい、J1でプレーすることを夢見て邁進します。日々目標を立てて練習に励んでいきます。そしてプロ選手になるまでに両親に学費や遠征費で相当な負担を掛けたので、いつの日か沢山の恩を返したいと思っています。